

東カリブ諸国機構（OECS）6カ国月間情勢報告
（アンティグア・バーブーダ、ドミニカ国、グレナダ、セントクリストファー・ネイビス、
セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島）
（2019年2月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- セントキッツでは犯罪増加による治安対策が強化され、セントルシアでは空港への爆破予告事件が発生した。
- IMF副専務理事はこの地域を訪問し、グレナダでは財政管理面での業績を評価した。
- グレナダとセントルシアで独立記念日を迎えたが、セントルシアの式典には台湾の立法院長が出席した。

2. 内政

- 4日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス財務大臣は野党側からの15年選挙正当性提訴に関する弁護士等費用で約65万東カリブドルを費やしたと明らかにしたと報道。
- 7日付セントビンセント紙は、国民動員省は18年の弱者保護の件数は10,754件あったと述べ、19年度予算では1億400万東カリブドルが社会的弱者保護に配分されていると報道。
- 7日、ミッチェル・グレナダ首相は、独立45周年の祝辞の中で同国が強靱性をもって多くの困難を克服し今日の国家を築いた、今後も国家開発計画に基づいて邁進する必要があると述べた。
- 11日付アンティグア紙は、米国際開発庁、アンティグア及びOECS事務局は青少年犯罪者の社会的更正支援にコミットする覚書に署名したと報道。
- 16日、セントキッツ政府は最近の犯罪増加に対して、関係機関がその対策計画を実行に移すが、市民からの協力を要請するとの声明を発出した。
- 17～18日付ドミニカ国紙は、スケリット首相は、次期総選挙に向けて与党労働党の新たな候補13人を発表したが、セン＝ジャン教育大臣等の閣僚数名も除外され、大幅な変更がなされた、同首相は候補者の新鮮さを訴えたと報道。
- 18日付グレナダ紙は、18年の同国総選挙へのOAS選挙監視団は、近隣諸国からの不適格者が有権者名簿に含まれているとの懸念が表明されたことに留意する最終報告書を提出したと報道。

- 24日付セントルシア紙は、20日に同国空港に対する爆破予告がなされ、空港は一時閉鎖されたが、爆発物は見つからなかったと報道。
- 22日付セントキッツ紙は、政府は大麻の医療及び科学目的使用の合法化に向け準備を進めると述べたと報道。

3. 経済

- 4日、アンティグアのオールセント中学校に対し、水耕栽培による農業教育推進のための草の根無償（約7万米ドル）の署名式が行われた。
- 5日付セントキッツ紙は、ブラントリー外務大臣は、ア首連のカリブ・エネルギー基金の資金で海水淡水化施設2基が今年前半に建設されると発表したと報道。
- 5日付セントキッツ紙は、バイロン司法長官は、市民権のための投資プログラムの第三者預託口座に関する規制を強化し、同プログラムの法制度を強化するための準備を行っているとして述べた、政府は生体認証を近く導入すると報道。
- 7日、カリブ開発銀行は、18年のプロジェクト融資総額は2億8千万米ドル、前年比20%増と、過去最高となったと発表。
- 8日、OECSは1月28日にジャマイカでOECS観光大臣会合を開催し、観光産業が経済を牽引する役割を認識し、観光行動計画を採択したと発表。
- 12日、セントルシア政府は、台湾が教育分野での技術支援のため250万東カリブドルを贈与したと発表。
- 12日付ドミニカ国紙は、バイタル開発社はラウダット県に高級エコリゾート（72室）建設合意に署名したと報道。
- 13日、セントビンセントの訪問中の平山大使は、聖母マリア・ローマカトリック小学校校舎改修に関する草の根無償（約3万2千米ドル）署名を行った他、14年及び14年に無償資金協力で供与した防災機材等の引き渡し式にブラン保健大臣他と共に出席した。
- 13日、グレナダ政府は、同国訪問中のザンIMF副専務理事は同国が債務GDP比を40%近く下げる等の財政管理の業績を高く評価したと発表。
- 13日付セントキッツ紙は、台湾がネービス島の病院に医療機器を寄贈し、12日に引き渡し式が行われたと報道。
- 15日、セントキッツで東カリブ中央銀行通貨理事会がミッチェル・グレナダ首相の議長の下開催され、通貨や金融の安定性、財政及び債務の持続可能性等につき協議された。
- 19日付グレナダ紙は、ミッチェル首相は昨年の東カリブ6カ国の金融部門は概して安定したと述べたと報道。
- 20日付ドミニカ国紙は、同国訪問中のザンIMF副専務理事はスケリット

首相と会談し、ハリケーン・マリアからの復興状況を賞賛し、自然災害や気候変動に対する強靱性強化の重要性で一致したと報道。

●20日、ドミニカ国でUNDP日カリブ海気候変動パートナーシップによるバガテル地区住民の緊急時用に源泉水源の修復、強化プロジェクトの開所式が行われた。

●25日、ドミニカ国水産局に対し可動式製氷機整備のための日本の草の根無償（約6万米ドル）の契約書が署名された。

4. 外交

●8日付ドミニカ国紙は、バロン外務大臣は、アルマグロ米州機構（OAS）事務総長に対し、同国を批判するようなSNS投稿の削除と謝罪を求める書簡を発出したと報道。

●12日、OECS事務局はブラントリー・セントキッツ外務大臣がEU中南米カリブ財団専務理事と会談し、同財団を国際機関とするための条約を締結したと述べたと発表した。

●13日付セントビンセント紙は、世界政府サミット出席のためアブダビ訪問中のゴンザルベス首相は、ムハンマド首相と会談し、両国間の投資促進などを協議したと報道。

●11～13日、平山大使は信任状捧呈のためにセントビンセント訪問し、13日にバラントイン総督に信任状捧呈を行った他、シーザー農業漁業大臣、トーマス国会議長等と会談した。

●18日付セントルシア紙は、フロット＝ボブラン外務担当大臣はベネズエラ問題に関して新たな選挙が必要との立場を再度強調したと報道。

●22日付セントルシア紙は、蘇嘉全台湾立法院長が同国独立40周年祝賀式典出席及び同国議会との関係強化のため訪問したと報道。

●26日、JICAセントルシア事務所は、日本の大学生9名を同日から4週間の研修に受け入れ、農業省に派遣し、各種活動を実施すると発表。

●26～27日、セントキッツは第30回カリコム中間首脳会合を開催し、各国首脳その他、この機会にエストニア大統領、UNCTAD事務局長が同国を訪問した。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。